

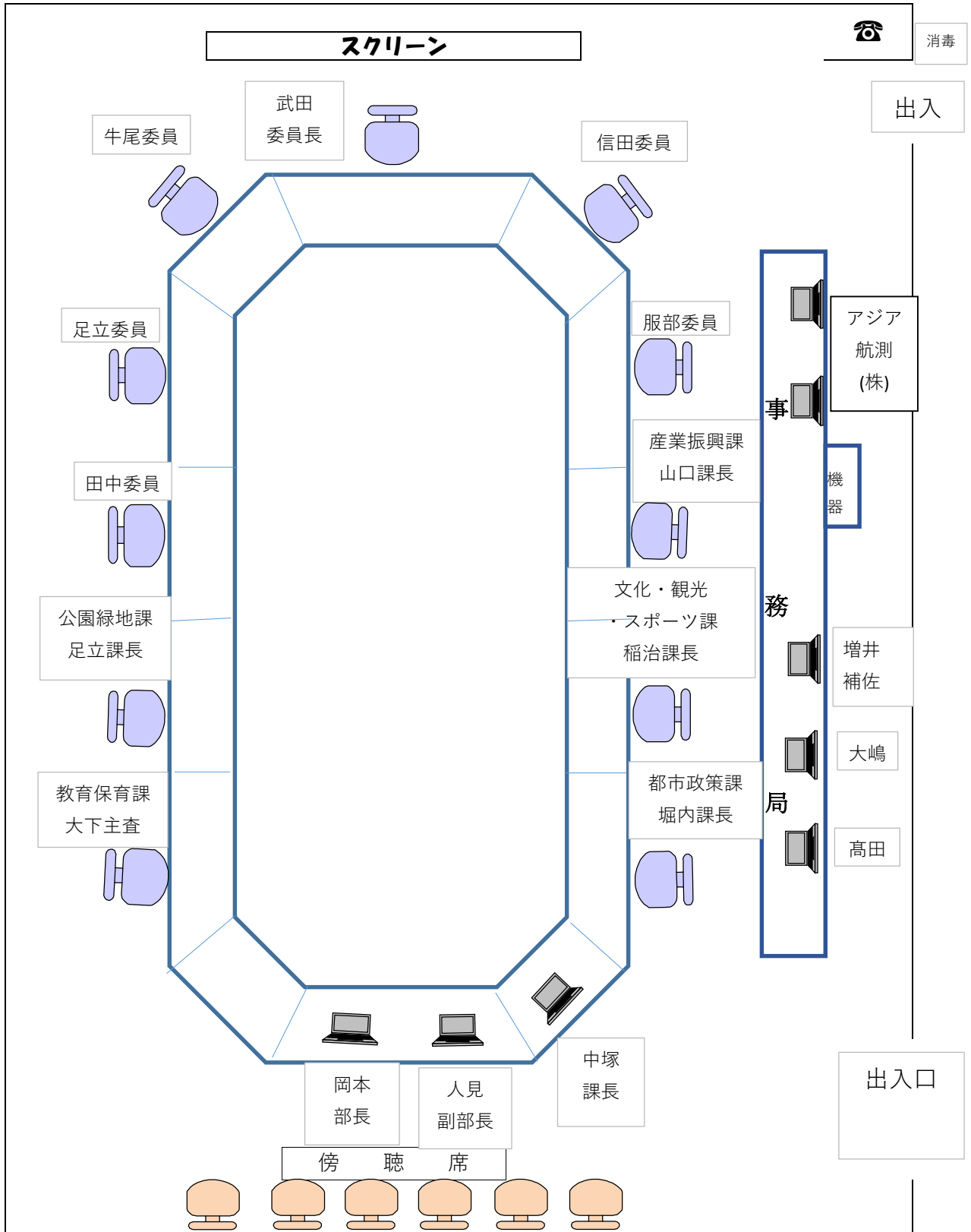
令和4年度第2回川西市環境審議会 部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）名簿

令和4年11月11日（金）開催 庁議室

No.		氏名	役職	選出区分	備考
1	審議会委員	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究科名誉教授	学識経験者	部会長 (委員長)
2	専門委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長 元能勢電鉄株式会社	学識経験者	
3	専門委員	牛尾 巧	一庫公園管理事務所長	学識経験者	
4	専門委員	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 名誉教授 兵庫県立南但馬自然学校学長	学識経験者	
5	専門委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会会長	学識経験者	
6	専門委員	田中 廉	川西自然教室代表	学識経験者	
7	担当員	山口 順子	産業振興課長	市職員	
8	担当員	稲治 惟也	文化・観光・スポーツ課長	市職員	
9	担当員	堀内 孝洋	都市政策課長	市職員	
10	担当員	足立 拓也	公園緑地課長	市職員	
11	担当員	中津留 幸紀	道路整備課長（道路補修担当）	市職員	欠席
12	担当員	寺田 義一	社会教育課長	市職員	欠席
13	担当員	下内 卓夫	教育保育課長	市職員	大下主査出席
14	担当員	福本 靖	教育推進部参事兼教育保育課長（研修担当）	市職員	

令和4年度 第2回川西市環境審議会部会
(生物多様性ふるさと川西戦略委員会)

4.11.11 (金) 13時30分
庁議室



川西市環境審議会 部会

令和4年度 第2回 生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会 次第

日時：令和4年11月11日 13：30～

場所 川西市役所 4階 庁議室

1. 市民環境部長 あいさつ
2. 委員長 あいさつ
3. 委員長及び各委員 紹介
4. 審議事項
 - (1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」第1期計画の総括について
【資料1-1、1-2】
 - (2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂概要及び今後のスケジュールについて
【資料2、3、4】
 - (3) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂内容について
【資料5、6】
 - (4) 「生物多様性ふるさと川西戦略」のアンケート調査の実施について
【資料7、7-1、7-2、7-3】

【配付資料】

- 名簿 令和4年度第2回川西市環境審議会 部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）名簿
- 座席表 令和4年度 第2回川西市環境審議会部会
（生物多様性ふるさと川西戦略委員会）
- 【資料1-1】 生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査（総括）
- 【資料1-2】 生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標（総括）
- 【資料2】 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂について
- 【資料3】 スケジュール
- 【資料4】 今後のスケジュールについて（案）
- 【資料5】 生物多様性ふるさと川西戦略変更事項
- 【資料6】 【生物多様性ふるさと川西戦略 図表リスト】2015年（平成27年）3月発行
- 【資料7】 「生物多様性ふるさと川西戦略のアンケート」について
- 【資料7-1】 生物多様性に関する市民アンケート（案）
- 【資料7-2】 生物多様性に関する小学生アンケート（案）
- 【資料7-3】 生物多様性に関する事業所アンケート（案）

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査(総括)

自己評価の評価方法

A: 目標に向かって事業を実施することができた。 B: 実施できていない。

今後の方向性の評価方法

A: 次年度以降は実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。 B: 今年度以降は廃止を含めて実施内容の再検討する必要がある。

No.	基本戦略	施策名称	施策内容	担当課	自己評価	今後の方向性	成果と課題	今後の方向性
1	基本戦略1	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	森の幼稚園	公立幼稚園を対象に兵庫県立一庫公園での「森の幼稚園」を実施し、幼児期から自然にふれあう機会を作っていきます。	教育保育課		
2	基本戦略1	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	小学校体験活動(環境体験)	小学校3年生を対象とした「環境体験」を実施し、児童が普段生活している地域の自然の中に出かけて環境体験をします。また、川西独自の自然や産物を知り、それらを広めていくことで、環境問題を考えて解決していく素地を育んでいきます。	教育保育課	A	A
3	基本戦略1	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	里山体験学習	小学校4年生対象に「里山体験学習」を実施し、日本一の里山である黒川地域を体験活動の場として、自然に対する畏敬の念をはじめ、生命のつながり・環境保護の大切さを実感し、美しさに感動する豊かな心を育んでいきます。川西市の自然特性を活かした独自の環境教育です。	教育保育課	A	A
4	基本戦略1	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	中学校教育支援	中学校2年生対象に地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重したさまざまな活動や体験を通して、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てるとともに、自立性を高め「生きる力」を育んでいきます。	教育保育課	A	A
5	基本戦略1	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	教職員や市民を対象とした研修の実施	教育研究	教職員対象に「環境体験研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを体験し、自然・生物・環境教育など体験的な研修を行っていきます。	教育保育課	A	A
6	基本戦略1	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の熟成および生物多様性教育	教職員や市民を対象とした研修の実施	生涯学習の充実	生涯学習短期大学「レフネック」、川西市高齢者大学「りんどう学園」などの生涯学習の充実を図り、リタイヤした世代だけでなく、30才から50才代への環境教育も充実させていきます。	社会教育課	A	A

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査(総括)

自己評価の評価方法

A: 目標に向かって事業を実施することができた。 B: 実施できていない。

今後の方向性の評価方法

A: 次年度以降は実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。 B: 今年度以降は廃止を含めて実施内容の再検討する必要がある。

No.	基本戦略		施策名称	施策内容	担当課	自己評価	今後の方向性	成果と課題	今後の方向性
7	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	広報やHPによる情報発信	自然環境情報の発信	環境衛生課	A	A	活動団体を市民等に知っていただくきっかけを作ることができた。今回の展示会のように市民が気軽に触れることができる催しを継続して実施する必要がある。	活動団体や企業を紹介するページの内容等を随時更新させ、引き続き情報発信に努めるほか、イベント情報についても、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、開催地の変更等も含めて来場者が増えるようなPRに努める。
8	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	広報やHPによる情報発信	国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発	環境衛生課	A	A	日頃から国や兵庫県の動きを確認し、市民や自然活動団体等にとって有益な情報を把握して発信する必要がある。	引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、最新情報を広報やHPに掲載したいと考えている。
9	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	広報やHPによる情報発信	観光マップ「歩くと川西めぐり」や「川西学検定」の実施などを通して、市の自然や歴史、市内の観光地のPRを行っていきます。	文化・観光・スポーツ課	A	A	看板の更新については、最新の市の自然・観光の情報を得ることが出来るようになった。ハイキングコースについては、HP等を随時更新し最新の情報を発信していく必要がある。	看板の情報更新やHPの見直しを行いながら、市内の歴史、観光地のPRを進めていく。
10	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	広報やHPによる情報発信	地産地消の推進	産業振興課	B	B	JALのホームページ、キルフェボンのSNSなど、市ホームページ以外にも多く紹介され、市内外に特産品をPRできた。	感染症対策を取りながら、即売会の開催方法を検討する。市ホームページのほか、直売所マップを作成するなど積極的にPRする。
11	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	広報やHPによる情報発信	市街地における里山のPR	公園緑地課	A	A	里庭エリアでプレーパークなどの市民主体のイベントが実施されるなど、多くの近隣住民の憩いの場となっており、里山の自然を身近に感じられる場を創出している。	より多くの市民に里山を感じてもらえるよう、継続して維持管理を行うとともに、さらに里山のPRにつながるよう努める。
12	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信	キセラ川西整備地区における低炭素まちづくり	公園緑地課	A	A	事前協議を実施し、環境に配慮したまちづくりを適切に誘導した。また、ラベリング評価を実施し、ラベリング物件を表示するプレートを作成、掲示のお願いを実施した。また、「公園探検ツアー」を通して、施設の低炭素化の取り組みを学習の場として活用、環境に配慮した公園整備を紹介、身近な自然エネルギーについて関心を持つ働きかけを行った。「しぜんあそび」を通して、幼児はゲームや自然観察で自然を大切にする気持ちを育み、保育士も自身の環境学習へのかかわり方を学んだ。	「低炭素まちづくり計画」の計画期間は令和4年度までとなり、事前協議の実施や、「計画」の達成状況を図るためのモニタリング調査、「環境学習」がキセラ川西地区で定着するよう支援・働きかけを実施するなど、令和4年度も引き続き、低炭素のまちづくりを進めていく。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査(総括)

自己評価の評価方法

A: 目標に向かって事業を実施することができた。 B: 実施できていない。

今後の方向性の評価方法

A: 次年度以降は実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。 B: 今年度以降は廃止を含めて実施内容の再検討する必要がある。

No.	基本戦略		施策名称	施策内容	担当課	自己評価	今後の方向性	成果と課題	今後の方向性
13	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信	再生可能エネルギーの普及啓発	環境衛生課	B	A	モニターに流すことによって、来庁者が太陽光発電の理解につながる内容を検討し啓発する必要がある。	太陽光発電システムには、説明のアニメーションがあり、発電量などの基本的な情報とともにモニターで流し、幅広い層に啓発できるよう検討する。
14	基本戦略2	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信	川西市都市景観形成条例の改正及び川西市景観計画の策定	都市政策課	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全ての届出において、基準を満足するように景観誘導できた。 公共施設を設置する各事業課において、景観形成への配慮意識が醸成され、ホームページで公表することで、事業者や市民にも情報発信できた。 コロナ禍でも工夫しながら景観展を実施し、市民に景観に対するの関心を高めてもらうことができた。 	今後も積極的な情報発信に努め、景観資源の保全や活用により魅力的な景観の形成を推進する。
15	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	市民生活での生物多様性保全の活動の支援	市民や事業者との連携による生物多様性向上(エコアップ)の推進	環境衛生課	A	A	生物多様性ふるさと川西戦略のデータを閲覧しないと見ることができないため、閲覧者は興味のある方に偏っている可能性がある。	令和4年度から5年度にかけてふるさと川西戦略が改訂されるのを契機に、より目に触れやすくなるようなHPに改善する。
16	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	市民生活での生物多様性保全の活動の支援	外来種対策の推進	環境衛生課	A	A	ヒアリについては、今後も最新の対応方法を掲載するよう努める必要がある。	ヒアリやセアカゴケグモのみならず、他の外来生物についても対応策を把握し、HP上に掲載を考える。
17	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による文化財の指定および生物多様性向上の事業の実施	文化財保存啓発	社会教育課	A	A	市指定文化財(天然記念物)の新たな措置を推進することができた。	市指定文化財(天然記念物)の候補物件の調査を行って、正確な価値づけを行い、所有者、管理者等と調整を行いながら、慎重に指定業務を進める。市指定文化財(天然記念物)の普及啓発、活用を推進する。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査(総括)

自己評価の評価方法

A: 目標に向かって事業を実施することができた。 B: 実施できていない。

今後の方向性の評価方法

A: 次年度以降は実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。 B: 今年度以降は廃止を含めて実施内容の再検討する必要がある。

No.	基本戦略			施策名称	施策内容	担当課	自己評価	今後の方向性	成果と課題	今後の方向性
18	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による文化財の指定および生物多様性向上の事業の実施	ため池などの保全	農業用灌漑のため、水利組合が管理するため池や農業用水路などの補修、改修、水難防止のため、安全柵の設置などへの支援を行っています。今後の改修などに際しては、ため池などにおける生物多様性の重要性に配慮し、進めていけるよう検討していきます。	産業振興課	A	A	地元水利組合等が農業用施設の補修や改修の工事を実施することで、農業用施設の適切な管理やため池などの保全を行うことができた。	今後も地元水利組合等が実施するため池や農業用水路などの補修や改修の支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮するよう依頼する。
19	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による文化財の指定および生物多様性向上の事業の実施	生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進	市内の公園および都市緑地の管理に際しては、特に外来種の対策を強化し、生物多様性に配慮した在来種や川西市のシンボルとなる樹種などの植栽を実施していきます。	公園緑地課	A	A	生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リストに基づき、トウネズミモチなどについては駆除に努めているが、市内全域については公園数も多く、手が回らないのが実情である。	通報・発見の都度に駆除するという方法で対応し、引き続き生物多様性に配慮した公園・緑地管理を推進する。
20	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	ナラ枯れ対策	カシノナガキクイムシによるナラ枯れが西日本を中心に被害が拡大しており、本市は被害最先端地に指定されていることもあり、被害拡大防止に取り組んでいきます。	産業振興課	A	A	ナラ枯れ被害の確認数が減少してきたため、被害最先端地から外れた。	森林ボランティア団体等がナラ枯れ対策を実施できるよう、県のナラ枯れ被害対策事業を適宜案内する。
21	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	有害鳥獣対策	川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っていきます。	産業振興課	A	A	県猟友会川西支部協力のもと、一定数の捕獲・処分の成果が上がっているが、農作物被害は無くならない。	引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数調整を図っていく。
22	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	外来動物対策	農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来種生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行っていきます。	産業振興課	A	A	捕獲依頼申請数及び捕獲数が増加傾向にあり、農作物被害が多数発生している。	引き続き県猟友会川西支部と連携し、アライグマやヌートリアの捕獲・処分を行い、農作物被害の防止に努めていく。
23	基本戦略3	生物多様性保全の取り組みの強化	川西市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	外来植物対策	川西市の在来植物の生育場所を守るために、侵略的な外来植物の対策を進めていきます。	都市政策課			都市政策課該当なしのため削除	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査(総括)

自己評価の評価方法

A: 目標に向かって事業を実施することができた。 B: 実施できていない。

今後の方向性の評価方法

A: 次年度以降は実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。 B: 今年度以降は廃止を含めて実施内容の再検討する必要がある。

No.	基本戦略		施策名称	施策内容	担当課	自己評価	今後の方向性	成果と課題	今後の方向性
24	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	市民・団体、企業などとの連携の構築	生物多様性に関する情報交換の場の提供	環境衛生課	A	A	シンポジウムは中止となったが、川西市で活動する自然活動団体を紹介する展示会を開催することによって、団体との交流を維持することができた。	新型コロナウイルス感染症拡大のため、シンポジウムの開催は今後も困難であると予想されることから、情報交換について、他の方法も検討する必要がある。
25	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	市民・団体、企業などとの連携の構築	森林ボランティアの支援	産業振興課	A	A	各ボランティア団体が黒川地区の里山を含めた森林の整備や保全の活動を継続することができた。	引き続き森林ボランティア団体への活動支援を行い、森林の整備や保全に努めていく。
26	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	市民・団体、企業などとの連携の構築	まち山の再評価	公園緑地課	A	A	市街地に点在するまち山について、生物多様性の拠点として再評価するとともに、今後の保全や活用について、市民との協働の方法などを検討します。	一部の緑地の維持管理等を市民団体主体で進めてもらうことができている。今後も継続的に活動してもらえるように、団体の支援や連携を行う。
27	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	市民・団体、企業などとの連携の構築	事業者との連携および生物多様性戦略作成の応援	環境衛生課	B	B	兵庫県立一庫公園、独立行政法人水質源機構一庫ダム管理所、国崎クリーンセンターなど生物多様性の拠点となる地点を管理する事業者などと連携し、生物多様性の保全活動の推進や各事業者、団体による生物多様性(学校・企業・公園など)戦略の作成を応援します。	企業、学校等に戦略を作成することで、守るべきものや目標に向けた行動が具体的に必要といったメリットを伝えていくことが必要と考える。
28	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	兵庫県や市民団体との既存事業の継続	北摂里山博物館構想	文化・観光・スポーツ課	A	A	都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより、環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズにあわせて利活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取り組みを兵庫県と連携して実施していきます。	令和5年の川西市黒川里山センターの開設に向けて、施設の目的に合った指定管理者の選定を行う。また、関係人口の拡大から地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。
29	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	兵庫県や市民団体との既存事業の継続	NPOなどと連携した河川美化の実施	道路整備課	A	A	猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っています。	河川区域の除草業務は下水道技術課により実施された。 計画通り実施し、河川の美化環境を保全することに努めることができた。
30	基本戦略4	各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大	兵庫県や市民団体との既存事業の継続	NPOなどと連携した河川美化の実施	美化推進課	A	A	猪名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っています。	依頼分12件を全て回収した。 今後とも依頼があれば対応していく。

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標(総括)

自己評価の評価方法

A 事業を実施することができた。B 事業を実施できていない

今後の方向性の評価方法

A 次年度以降実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。B 次年度以降は廃止を含めて実施内容を見直す必要がある。

基本戦略	評価指標	担当課	自己評価	今後の方向性	目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	成果と課題・今後の方向性	
1. 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の育成														
◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた年間の人数	保育所	教育保育課	B	B	市立保育所の全園児・保育士			0	0	0	0	0	
		幼稚園	教育保育課	A	B	市立幼稚園の全園児・教諭			49 (対象者全員)	72 (対象者全員)	56 (対象者全員)			幼稚園児を対象とした環境教育が終了したため。
		小学校	教育保育課	A	A	市立小学校の全3年・4年・5年生	2,694	2,703	4122 (対象者全員)	4055 (対象者全員)	4033 (対象者全員)	2577 (対象者全員)	3904 (対象者全員)	小学校3年生の児童が環境問題に興味関心を持つようになった。また、校区にどのような環境があるかを学ぶことができ、川西市の特産品を学ぶなど、地域の方々と共に活動することができた。 地域によっては活動プログラムが確立されておらず、地域での活動が希薄である小学校があることが課題である。 地域参画を目指し、SDGsの視点を取り入れ、各小学校の独自性を活かした小学生が主体的に環境教育に取り組むことができる環境体験プログラムを構築していく。 また、小学校4年生については、黒川の方々や社会教育団体の方々の協力を得て、川西の特産品をはじめ、環境問題や生活の知恵等、幅広く学習することができた。 里山と人間がどのように関わってきたかを学習し、SDGsについて理解を深めることができた。 黒川地区のサポーターの方々が、年々減少しているが、広域に募集を行い、増員することができた。 黒川地区のサポーターの方々を増員し、少人数による体験学習を実現できるようにする。 サポーターの方々の資質向上を目的とした実地研修を行っていく。
		中学校	教育保育課	A	A	市立学校の全中学2年生	1,518	1,462	1330 (対象者全員)	1335 (対象者全員)	1240 (対象者全員)	1296 (対象者全員)	1243 (対象者全員)	地域や自然の中で、地域の方々や従業員の方々と環境保全体験や職場体験を行い、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てることができ、「生きる力」を育むことができた。 地域参画の視点を継続する中で、SDGsの視点を取り入れていく。 地域の事業所やボランティアの方々を継続して「トライやる・ウィーク」に今後も取り組んでいけるように関係を構築していく。
◆教職員を対象とした研修の実施	研修を受けた年間の教職員数	教育保育課	A	A	市立小学校の全3年・4年・5年教員	59	53	19	6	26	48	45	日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などの恵みを教職員が再認識した。 各学校の実情に合わせて教職員が児童へ授業するには専門的な知識の定着が課題である。 継続的に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、専門的な知識の定着を教職員に図るとともに、川西市を教材とした環境学習プログラムの定着も同様に図る。	

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標(総括)

自己評価の評価方法

A 事業を実施することができた。B 事業を実施できていない

今後の方向性の評価方法

A 次年度以降実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。B 次年度以降は廃止を含めて実施内容を見直す必要がある。

基本戦略	評価指標	担当課	自己評価	今後の方向性	目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	成果と課題・今後の方向性		
2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発															
◆広報やHPによる情報発信	1年間の各HPへのアクセス数	環境衛生課	A	A	3,000					3,027	3,125	3,570	6,614	7,289	活動団体を市民等に知っていただくきっかけを作ることができた。 今回の展示会のように市民が気軽に触れることができる催しを継続して実施する必要がある。 活動団体や企業を紹介するページの内容等を随時更新させ、引き続き情報発信に努めるほか、イベント情報についても、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら、開催地の変更等も含めて来場者が増えるようなPRに努める。 また、国や兵庫県が作成する上位計画などの広報、普及啓発引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、最新情報を広報やHPに掲載したいと考えている。
	1年間に紹介した自然環境の数	環境衛生課	A	A	1					1	2	4	2	4	活動団体を市民等に知っていただくため、今後も広報誌やHPなどで啓発する。
3. 生物多様性保全の取り組み強化															
◆川西市による文化財の指定及び生物多様性向上の事業の実施	1年間の天然記念物の指定件数	社会教育課	A	A	増加		2	0	1	1	0	0	2	市指定文化財(天然記念物)の新たな指定を推進することができた。 市指定文化財(天然記念物)の候補物件の調査を行って、正確な価値づけを行い、所有者、管理者等と調整を行いながら、慎重に指定業務を進める。 市指定文化財(天然記念物)の普及啓発、活用を推進する。	
◆川西市による生物多様性の被害を与える獣害対策などの実施	1年間に捕獲した有害鳥獣数	産業振興課	A	A	245	108	160	286	244	260	277	193	県猟友会川西支部協力のもと、一定数の捕獲・処分成果が上がっているが、農作物被害は無くなっていない。 引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数調整を図っていく。		

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標(総括)

自己評価の評価方法

A 事業を実施することができた。B 事業を実施できていない

今後の方向性の評価方法

A 次年度以降実施する。もしくは今年度に引き続いて実施する。B 次年度以降は廃止を含めて実施内容を見直す必要がある。

基本戦略	評価指標	担当課	自己評価	今後の方向性	目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	成果と課題・今後の方向性
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大													
◆市民、団体、企業などとの連携の構築	情報交換の実施回数	環境衛生課	A	A	1			1	1	1	1	1	1 シンポジウムは中止となったが、川西市で活動する自然活動団体を紹介する展示会を開催することによって、団体との交流を維持することができた。新型コロナウイルス感染症拡大のため、シンポジウムの開催は今後も困難であると予想されることから、情報交換について、他の方法も検討する必要がある。
	1年間に支援したボランティア数	産業振興課	A	A	250	219	231	246	237	253	231	267	各ボランティア団体が黒川地区の里山を含めた森林の整備や保全の活動を継続することができた。引き続き森林ボランティア団体への活動支援を行い、森林の整備や保全に努めていく。
	1年間に支援したボランティア数	環境衛生課	A	A	18			15	16	16	16	17	企業、学校等に戦略を作成することで、守るべきものや目標に向けた行動が具体的に become といったメリットを伝えていくことが必要と考える。新型コロナウイルス感染症拡大のため、シンポジウムやイベントの開催は今後も困難であると予想されることから、他の方法で戦略作成を応援していきたいと考えている。
	企業、学校などが作成した生物多様性戦略の数	環境衛生課	B	B				0	0	0	0	0	企業、学校などが作成した生物多様性戦略はないが、各団体が環境の方針に基づいて活動に取り組んでいる。
◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	河川美化活動の年間の実施回数	道路整備課	A	A	3			不明	7	9	12	12	河川区域の除草業務は下水道技術課により実施された。計画通り実施し、河川の美化環境を保全することに努めることができた。河川区域の除草業務は下水道技術課により実施している。市民団体が行う河川の清掃活動により発生した廃棄物の収集、処理は、引き続き市民団体及び美化推進課と連携して実施していく。

「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂について

1. 計画の目的と位置づけ

川西の素晴らしい自然と文化のもとになる生物多様性を次世代に引き継ぎ、持続的に利用することを目的に、私たちのふるさとである川西に誇りと愛着を持って、自然や文化、生物多様性の理解を深め、川西総動員で生物多様性を守り、育み、共生するまちづくりを進めていくために取るべき行動について提言するものである。

2. 現計画の概要

(1) 計画期間

2015(平成27)年度～2032(令和14)年度【18年間】 第1期2022年度まで

(2) 内容

生物多様性の豊かな川西市の将来像を見据え、目標とそれを達成するための戦略として「ふるさと川西市民戦略」と「環境教育」、「情報発信」、「保全の取り組み強化」、「連携による活動の拡大」に関する4つの基本戦略を定め、具体的な行動計画を提案している。

3. 国・県の動向

(1) 国の動向

2012(平成24)年9月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2012-2020」の改定に向けた検討が進められている。

次期戦略案の作成に向けて、愛知目標に続く生物多様性の新たな世界目標「ポスト2020生物多様性枠組」(2022年12月に予定される生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)第二部において採択見通し)を反映した新たな目標や取組等について、生物多様性国家戦略小委員会を中心に議論されている。

議論で取り上げられている主なキーワードとして、2030年までに陸と海の30%以上を保全する目標である「30by30目標」や、生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる目標である「ネイチャーポジティブ」などが挙げられる。

(2) 県の動向

県では、2014(平成26)年3月に「生物多様性ひょうご戦略」を策定し、生物多様性を取り巻く自然・社会・経済環境の変化を反映し、2019(平成31)年2月に戦略の改定を実施した。

現行計画における課題として、次の内容が挙げられる。

- ・侵略的な外来生物の侵入対策強化(ヒアリ、クビアカツヤカミキリなど)
- ・野生鳥獣被害対策(シカやイノシシによる食害、カワウの食害による在来魚の減少、アライグマ

等外来生物の分布拡大など)

- ・瀬戸内海の再生に向けた健全な物質循環の確保やごみ対策
- ・気候変動による種の絶滅や生息・成育域の移動、減少、消滅改善の対策
- ・持続可能な里地・里山の維持に向けた対策
- ・生物多様性の保全等に関わる人材の確保に向けた対策

4. 改訂の方向性

長期的な視点が必要である「生物多様性ふるさと川西戦略」については現在の内容の大幅な変更はせず、現状に合った改訂に留める。ただし、現在、国が改訂作業中である次期生物多様性国家戦略素案に記載がある5つの基本戦略と個別目標に沿った内容とし、SDGs、ネイチャーポジティブ、30by30、ワンヘルスなどの要素を取り込んで、計画の改訂を行う。

計画名称等	令和4（2022）年度												令和5（2023）年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画策策定（一部改訂）業務 環境衛生課の実施項目	第3次川西市環境基本計画から 20017～20026年度へ 2024～2031年度へ 改定												第3次川西市環境基本計画から 2015～2032年度 変更なし											
	課内調整と部長協議 市長説明（枠組） ●環境審議会① 市長説明（修正後） ●環境審議会② 関係各課にヒヤリング ●環境審議会③ アンケート 素案作成 12月19日												R3進捗状況調査 専門部会① 11月11日 専門部会② 専門部会④ 専門部会⑤ ④～⑥審議会にて CO2削減目標の協議（適宜）											
新たな取り組み	生物多様性ふるさと川西戦略については現状に合った修正 契約後決定業社と打ち合せ 決定業社と市内CO2把握・削減 目標値の打ち合せ ①審議会にてCO2削減目標記載 について報告												シンポジウム ②審議会にて市内全域のCO2排出量の報告 市長説明進捗状況報告 ●環境審議会④ アンケート 実施結果 まごめ ●環境審議会⑤ ●環境審議会⑥ 市長協議 答申 市長説明十決裁 議員協議会 パブリックコメント 議員協議会 パブコメ結果公表 市長決裁 印刷製本（庁内） 生物多様性ふるさと川西戦略改訂 完了											

今後のスケジュールについて（案）

今後の部会の日程については、次のとおりです。

審議の進捗状況により、内容及び開催時期が変更になる場合があります。

時期		開催回数	審議事項
令和 4年度	5月16日	第1回	(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の令和3年度計画進捗状況について (2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の推進について (3) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂について
	11月11日	第2回	(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」第1期計画の総括について (2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂概要及び今後のスケジュールについて (3) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂内容について (4) 「生物多様性ふるさと川西戦略」のアンケート調査の実施について
	5年1月	第3回	(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂内容について ①各課ヒアリング結果について ②指標の改訂案について
令和 5年度	5月末	第4回	(1) アンケート調査実施結果について (2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂素案について
	7月末	第5回	(1) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の計画改訂答申案について

生物多様性ふるさと川西戦略変更事項

第1章「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的と位置づけ

該当頁	項 目	改 正 点
P 2	1. 「生物多様性ふるさと川西戦略」策定の目的	・改訂の趣旨についての説明を加える。
P 5	2. 生物多様性とは (2) 失われつつある生物多様性～生物多様性を脅かす4つの危機～	
	1) 人間活動などの直接的な要因（第1の危機）	・新名神は30年3月に開通しているため、「建設が進められている」を変更。 ・石道開発・舎羅林山開発を追記
	3) 外国から持ち込まれた外来種の野生化による要因（第3の危機）	・国内の移動についても記述
P 7	(3) 生物多様性の大切さ～生物多様性を守る4つの意味～	・生物多様性国家戦略が改訂されるので、動向を確認しておく。
P 9	3. 策定の背景と位置づけ	
	(1) 生物多様性戦略に関する関係法令や国、県などの動向	・表に動向追加。（2022年まで記載）
	(2) 「生物多様性ふるさと川西戦略」の位置づけ	・計画期間の下での第5次川西市総合計画を含んだ文言の更新
P 10	(3) 計画の範囲と計画期間	

第2章川西市の生物多様性の現状と課題

P 12	1. 川西市の概況	
	(1) 位置・地勢・交通	・文末「新名神」の内容変更 ・総合医療センター・給食センターを追記
P 13	(2) 気候	・直近の情報に修正
	2. 川西市が誇る豊かな自然 (2) 川西市の多様な環境・生態系	

1) 日本一の里山 ◇生物多様性の状況	・多くの生きものが生育しています。→多くの生きものが生育・生息しています。
2) 棚田 ◇生物多様性の状況	・昆虫など動物も分かれば追記
3) ニュータウンのまち山 ◇生物多様性の状況	・昆虫など動物も分かれば入れる。活動団体に協力いただければ記入可能

P 1 8	4) 段丘崖のエノキ林 ◇生物多様性の状況	・ヘイケボタルも発見されているため追記
	(3) 川西市の生物相	
P 2 1	1) 概要	・文献や資料が更新されていれば、確認生物数の更新が必要 ・確認生物数の比較自治体を増やすことが可能。神戸市、伊丹市追加可能。西宮市、加西市は変更あり。
P 2 2 ～ P 2 3	2) 植物～6) 爬虫類	・太字になっている国版及び兵庫県版レッドリストは更新されているため、確認要
P 2 4	7) 昆虫類	・昆虫類のところに台場クヌギの写真が出てくることに違和感があるため削除
P 2 5	10) 問題をおこす生物 ②在来生物	・県内のホンドリカの数に更新ないか確認。 ・カシノナガキイムシの被害はまち山でもあると聞いている（表記の修正） 特定外来生物の表記確認
	(4) 川西市の特産品・文化	
P 2 6	1) 農産物（イチジク、クリ、モモ）	・図7の範囲の丸の色を種類ごとに分ける。 ・図にモモの写真も入れる。 ・図7の円の修正
P 2 7	2) 茶道文化と菊炭・台場クヌギ	・図8の黄色の点線は何を意味するか。→黒川地区（里山地区？）を表示
	3. 自然環境保全における取り組み (1) 行政の代表的な取り組み	

P 2 8	1) 基本計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・本文1行目：「2002年の」→「2002年に」 ・本文5行目：第2次環境基本計画に改める。
	2) 具体的な取り組み	
	<ul style="list-style-type: none"> ②森林振興事業 ③知明湖活用推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業名「森林振興事業」→「林業振興事業」 ・成果 助成金の交付について令和4年度の状況に更新 ・黒川里山センターを追記 ・「龍化溪流地区」→「龍化地区」、「出合なぎさ地区」→「出合地区」
P 2 9	(2) 市民団体の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市で把握している全ての団体について説明 ・図9に全体の活動地をプロットで示す。 ・多太神社の森（多太神社の森を守る会）を削除（R4. 1解散決定）

P 3 0	(3) 事業者の取り組み		
	1) 猪名川河川事務所の外来植物対策		・猪名川河川事務所を実施内容を確認
	2) 一庫ダムの外来魚対策		・一庫ダム管理所へ事業内容を確認
	3) 兵庫県立一庫公園の取り組み		・事業内容の確認
P 3 1	4) 国崎クリーンセンターの活動		・パーク戦略の写真を移動 ・事業内容の確認 ・啓発事業連携について追記
	5) 企業		
	■能勢電鉄株式会社		・平成23年に黒川字奥瀧谷エドヒガン群落が、平成29年に黒川字奥瀧谷台場クヌギ群落が市指定の天然記念物になっていること追記する。 ・事業内容の確認
	■黒田電気株式会社・株式会社チュチュアンナ・アサヒビール株式会社		・事業内容の確認 ・竹中工務店の清和台の森づくり追記必要 ・ダイハツ工業 多田工場の多田祭・猪名川クリーン作戦参加のほか、ビオトープを作ったこと追記
	(4) その他の取り組み		・生物多様性ふるさと川西戦略シンポジウム、環境基本計画シンポジウム (R5.1.29) を追記
P 3 2	4. 市民の意識～アンケート調査より～		・「川西市によるモデル整備や景観計画による情報発信」及び「市民生活での生物多様性保全の活動の支援」について評価できるような内容を含める。 ・策定の専門部会（第4回）では同じアンケートをとり、比較するとの意見が出ている。
P 3 6			・設問4の今後川西市で残したい自然の「神社林」→「社寺林」に変更

P 3 9			・設問 8 の情報発信方法のアイデアはSNSなど追加する。
P 4 0	5. 川西市の地域区分とその特徴・課題		
	(1) 川西市の地域区分		・見直し検討、市街地地域にキセラ地区を追記
P 4 2		各地域共通部分	
～		① 基礎情報	・公園数の確認
P 5 3		⑤生物多様性保全に向けた課題の整理	・項目ごとに下線を引く意味はないため削除

P 4 2 ～ P 5 3	(2) 地域の特徴の分析	
	各地域共通部分	
	① 基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な生態系などの数は何を参考にしているのか。 ・シンボリックな生きものなどにする。見てよくわからない写真は変更する。
	②重要な生態系・特徴的な自然	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境にのみ下線が入っており、産業（恵み）には入っていない。統一する。
	③活動団体など	<ul style="list-style-type: none"> ・自然活動団体の活動地漏れがないように載せる。
④市民の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意識欄は、アンケート結果によって内容を更新 	
	図面	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタープランの地域分けを記載する必要があるのか？
P 4 2	1) 里山地域	<ul style="list-style-type: none"> ・図の中の①黒川の山林（大槌）→（大土）に変更
	③活動団体など	<ul style="list-style-type: none"> ・能勢妙見山ブナ守の会、ひとくらクラブ、ひとくら森のクラブ、NPO法人北摂里山文化保存会を追加
	⑤生物多様性保全に向けた課題の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・”整理”を削除 ・連携欄に自然活動団体を追記する。 <p>右のページの図：市の天然記念物が増えているので確認すること（一庫ダム管理事務所のエドヒガン、台場クスギ）</p>
P 4 3		
	2) ニュータウン1地域	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な生態系などの数に「大和フォレストクラブ」の活動地などは入らないのか。
P 4 4	① 基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路の内容は入れないか。
	③活動団体など	<ul style="list-style-type: none"> ・大和フォレストクラブを追加する。

3) ニュータウン2地域

⑤生物多様性保全に向けた課題の整理	・ゴルフ場の生物多様性の確認の方法は。
②重要な生態系・特徴的な自然	・産業（恵み）にクリ（銀寄）を追加（特産品であるクリ（銀寄）が栽培されている。）
③活動団体など	・多太神社の森を守る会（多太神社社叢）を削除（R 4. 1 解散決定） ・東多田里山の会を追加
⑤生物多様性保全に向けた課題の整理	・社寺林か神社林で言葉を統一

P 4 8	4) ニュータウン3地域	
	②重要な生態系・特徴的な自然	・自然環境に、虫生の森が市の天然記念物指定を受けたことを追記
	③活動団体など	・虫生川周辺の自然を守る会（森林、植物）←昆虫も調査しているため追記
P 5 0	5) 市街地1地域	・キセラ川西せせらぎ遊歩道の内容を追加する。
	① 基礎情報	・キセラ川西せせらぎ公園、出在家健幸公園など追加 健幸公園を全部記載するかどうか？
	②重要な生態系・特徴的な自然	・自然環境中「神社林」→「社寺林」に変更 ・産業(恵み)中「早生のモモヤ」を削除
	③活動団体など	・流域ネット猪名川も活動している可能性あるため確認
	⑤生物多様性保全に向けた課題の整理	・基礎情報の収集は特になしでよいのか。 ・社寺林か神社林で言葉を統一。→寺院も含まれるため社寺林でよいのでは。
P 5 2	6) 市街地2地域	
	②重要な生態系・特徴的な自然	・自然環境中「河川本来の植生が発達するとともに」→「河川本来の植生が発達するとともに」
P 5 4	(3) 課題のまとめ	
	1) 川西市における4つの生物多様性の危機に対する課題 ①第一の危機に関連する課題（直接的な影響） ④第四の危機（地球温暖化の影響）	・写真があれば貼る。 ・新名神高速道路建設後の影響に触れるか。
	2) 川西市の生物多様性に関する認識と情報の不足	・市民の認識不足と決めつけると気分を害す読者の声があった。市の発信不足もあるので、課題が明確となったという方向で記載した方がいいのでは。

P 5 6	1. 生物多様性保全の基本理念と目指すべき川西市の将来像	・生物多様性新国家戦略に併せて、新たな理念に変更する可能性あり。
P 5 7	2. 目標の設定	・生物多様性新国家戦略に併せて、新たな理念に変更する可能性あり。

第4章 行動計画

P 6 2 ～ P 6 3	1. 「ふるさと川西市民戦略」	・市民向けの話と事業者向けの話が一緒になっているため変更が必要ではないか？（変更の場合専門部会で決を採る必要がある）
P 6 4 ～ P 6 9	2. 基本戦略に基づく行動計画	・各担当部署を現在のものに改める必要あり、令和5年度の所管名にする。
P 6 7	2) 川西市による文化財の指定および生物多様性向上の事業の実施	・天然記念物を追加（社会教育課に確認）
P 6 8	(4) 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大（基本戦略4）	
P 6 9	1) 市民、団体、企業などとの連携の構築 ④事業名【事業者との連携および生物多様性戦略作成の応援】・担当部署【美化環境部】 戦略の進捗を評価するための指標	項目を削除、もしくは修正する。 「・1年間に企業、学校などが作成した個別の生物多様性戦略の数」を削除

第5章 推進体制と進行管理

P 7 2 ～ P 7 3	1. 推進体制 庁内担当部署との連携強化 <各部の役割と今後の重点項目>	・令和5年度の部署名に修正 ・「（仮称）生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会」の（仮称）を取る
	2. 進行管理	

【生物多様性ふるさと川西戦略 図表リスト】2015年（平成27年）3月発行

図表名・番号	出典元		備考
	有	無	
図1 生物多様性の概念図		●	
図2 「生物多様性ふるさと川西戦略」の位置づけ		●	
図3 川西市の位置		●	
図4 川西市の気候		●	
図5 川西市の現存植生	●	「地球環境調査」	2002年 兵庫県植生誌研究会
図6 川西市の表層地質	●	「兵庫の地質」	1996年 兵庫県
図7 川西市の特産品の生産地		●	
図8 菊炭の生産地と台場クヌギの分布		●	
図9 各主体の活動状況		●	
図10 回答者の居住地区の割合		●	
図11 生物多様性の言葉の認識		●	
図12 生物多様性に関する出来事の認識		●	
図13 川西市の自然環境などに関する認識度		●	
図14 残したい自然環境		●	
図15 自然環境で配慮した行動		●	
図16 自然環境の保全活動などの経験・意志		●	
図17 情報発信のアイデア		●	
図18 川西市の地域区分		●	
図19 「生物多様性ふるさと川西戦略」の概要		●	
図20 推定体制と進行管理イメージ		●	
表1 生物多様性に関する動向		●	
表2 川西市の確認生物数		●	
表3 他市との確認生物数の比較		●	
表4 回収結果		●	市民アンケート調査より
表5 回答者の属性（性別・年齢構成）		●	〃
表6 年代別の認識度		●	
表7 川西市の地域区分とその特徴		●	
表8 生物多様性ふるさと川西戦略 進行管理計画		●	
わが国の生物多様性の回復イメージ	●		生物多様性国家戦略2010パンフレット「いのちを支え合う」より引用

◆生きもの情報など

- 『いのちは支えあう 生物多様性国家戦略2010』（環境省2010年）
- 『河川水辺の国勢調査（鳥類）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所2006年）
- 『河川水辺の国勢調査（河川環境基図）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所2011年）
- 『河川水辺の国勢調査（植物）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所2010年）
- 『かわにし里山の自然と生き物』（川西市教育委員会1998年）
- 『川西市国崎字小路におけるヒメボタルの生息状況調査及び保全措置にかかる研究報告書』（兵庫県立人と自然の博物館2005年）
- 『川西市景観MAP』（川西市）
- 『川西市史第二巻』（川西市1976年）
- 『川西の歴史と産業』（菅原2007年）
- 『15年間で著しく減少した川西市加茂地区のヒメボタル』（川西自然教室2010年）
- 『生息地の造成工事がヒメボタル個体群へ与える影響に関する研究報告書』（兵庫県立人と自然の博物館2006年）
- 『生物多様性ひとくらパーク戦略』（兵庫県立一庫公園2011年）
- 『第2回わがまち再発見写真集』（川西市2013年）
- 『ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま』（兵庫県立人と自然の博物館2010年）
- 『兵庫県における大・中型野生動物の生息状況と人との軋轢の現状（自然環境モノグラフ3）』（兵庫県立人と自然の博物館2007年）
- 『兵庫県における鳥類の分布と変遷（自然環境モノグラフ2）』（兵庫県立人と自然の博物館2006年）
- 『兵庫県におけるハバチ類の種多様性（自然環境モノグラフ1）』（兵庫県立人と自然の博物館2004年）
- 『兵庫県におけるヒメボタルの分布』（八木剛2007年）
- 『兵庫県の樹木誌』（兵庫県1996年）
- 『兵庫県の淡水魚（自然環境モノグラフ4）』（兵庫県立人と自然の博物館2008年）
- 『兵庫県の蝶』（畑政巳・近藤伸一2007年）
- 『兵庫県版レッドデータブック2011（生態系）』（兵庫県2011年）
- 『兵庫県版レッドデータブック2010（植物）』（兵庫県2010年）
- 『ひょうごの川・自然環境調査』（兵庫県2005年）
- 『13年度地域環境調査』（兵庫県植生誌研究会1992年）
- 『水辺現地調査（両生類他）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所2012年）
- 『水辺現地調査（魚類）』（国土交通省近畿地方整備局猪名川河川事務所2013年）
- 『未来につなげる国崎の自然エドヒガン群生林』（国崎クリーンセンター2012年）
- 『未来につなげる国崎の自然ヒメボタル飛翔林』（国崎クリーンセンター2013年）
- 『用水路に出た！オオサンショウウオ兵庫・川西』（水の生き物にゅーず2009年）

78◆貴重性・外来性の判定

- 『改定・兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2003』（兵庫県2003年）
- 『外来生物法』（法律第78号2004）
- 『環境省動物・植物レッドリスト』（環境省2012年）
- 『環境省動物・動物レッドリスト』（環境省2012年）
- 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（法律第75号1983年）
- 『兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）』（兵庫県2010年）
- 『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2010（植物・植物群落）』（兵庫県2010年）
- 『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2012-2014（鳥類・昆虫類・貝類・その他無脊椎動物）』（兵庫県2012～2014年）
- 『川西市文化財保護条例』（川西市1966年）

◆重要な生態系の抽出根拠

- 『川西市緑の基本計画』（川西市2002年）
- 『兵庫県立自然公園条例』（兵庫県1963年）
- 『特定植物群落』（環境庁1979年）
- 『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2010（植物・植物群落）』（兵庫県2010年）
- 『兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドデータブック2011（地形・地質・自然景観・生態系）』（兵庫県2011年）
- 『川西市文化財保護条例』（川西市1966年）
- 『北摂里山博物館構想』（兵庫県阪神北県民局 2011年）

「生物多様性ふるさと川西戦略のアンケート」について

戦略第1期の最終年度である今年度アンケートを実施することで、戦略に対する市民への認識度や参画意欲の状況などを把握し、「生物多様性ふるさと川西戦略」の見直しを行うためアンケート調査を実施します。

なお、調査時期は1月～2月を予定しています。

《市民アンケート》

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」という言葉や考え方の浸透度合いを把握する（「生物多様性かわにし戦略」をまとめるにあたり、説明内容の工夫や、説明ポイントの絞り込みに活用する。） ・川西市には、他の自治体にはないすばらしい自然や文化があり、これらは川西市の生物多様性を守る重要な場所にもなっている。こうした自然や文化を川西市民みなさんがどれだけご存じか、また、今後も守っていききたい、または残していききたいと感じておられるのかを把握する。（「生物多様性かわにし戦略」で目標とすべき自然や将来像を検討する際の参考とする。） ・今後、市民が生物多様性を守っていくため『できる』ことを把握する。（川西市の生物多様性を保全するための施策や行動計画を決めていくために活用する。） 	
調査内容	①調査対象	16歳以上の市民約1200名（無作為抽出）
	②調査方法	回答様式（紙）、市アンケートフォームを使用して回答する方法で実施する
調査項目	①属性（2問）	・年齢層・居住地域・居住年数
	②設問（10～15問）	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」という言葉の認識度 ・「生物多様性ふるさと川西戦略」の認識度 ・「川西市の生態系を育むすばらしい自然」の認識度 ・川西市で残したいと思う自然について ・過去よりも悪くなり、元に戻すべき自然や場所について ・日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけているか。 ・生きものや自然環境を対象にした保全活動・学習会などに参加した経験や意思について ・「生物多様性」の保全にあたり、川西市はどのような取組をすべきか ・川西市における自然環境や生物多様性に関するご意見、ご要望、ご自身のお考えなど
集計・分析	①単純集計	回答者の属性、設問ごとの回答を集計
	②クロス集計	回答者の属性と設問内容間、または設問間の関連の深いものや特徴が見られるものについて、分析し、その傾向を把握する。
	③自由回答	記述内容を整理・分類・類似する件数を把握し、その傾向をまとめる

《小学6年生》

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」という言葉や考え方の浸透度合いを把握する（「生物多様性かわにし戦略」をまとめるにあたり、説明内容の工夫や、説明ポイントの絞り込みに活用する。） ・川西市には、他の自治体にはないすばらしい自然や文化があり、これらは川西市の生物多様性を守る重要な場所にもなっている。こうした自然や文化を川西市民みなさんがどれだけご存じか、また、今後も守っていききたい、または残していききたいと感じておられるのかを把握する。（「生物多様性かわにし戦略」で目標とすべき自然や将来像を検討する際の参考とする。） ・今後、市民が生物多様性を守っていくため『できる』ことを把握する。（川西市の生物多様性を保全するための施策や行動計画を決めていくために活用する。） 	
調査内容	<p>①調査対象 市内の小学6年生約200名</p> <p>②調査方法 回答様式（紙）、市アンケートフォームを使用して回答する方法で実施する</p>	
調査項目	①属性(0問)	
	②設問 (約10問)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」という言葉の認識度 ・「生物多様性ふるさと川西戦略」の認識度 ・川西市で残したいと思う自然について ・日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけているか。 ・生きものや自然環境を対象にした保全活動・学習会などに参加した経験や意思について ・川西市における自然環境や生物多様性に関するご意見、ご要望、ご自身のお考えなど
集計・分析	①単純集計	回答者の属性、設問ごとの回答を集計
	②クロス集計	回答者の属性と設問内容間、または設問間の関連の深いものや特徴が見られるものについて、分析し、その傾向を把握する。
	③自由回答	記述内容を整理・分類・類似する件数を把握し、その傾向をまとめる

《事業者アンケート》

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「生物多様性」という言葉や考え方の浸透度合いを把握する（「生物多様性かわにし戦略」をまとめるにあたり、説明内容の工夫や、説明ポイントの絞り込みに活用する。） ・今後、市民が生物多様性を守っていくため『できる』ことを把握する。 （川西市の生物多様性を保全するための施策や行動計画を決めていくために活用する。） 	
調査内容	①調査対象 市内の事業者100社（無作為抽出）	
調査内容	②調査方法 回答様式（紙）、市アンケートフォームを使用して回答する方法で実施する	
調査項目	①属性(2問)	・ 職種・事業年数
集計・分析	②設問 (10～15問)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生物多様性」という言葉の認識度 ・ 「生物多様性ふるさと川西戦略」の認識度 ・ 川西市で残したいと思う自然について ・ 日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけているか。 ・ 生物多様性の保全にあたり、川西市が行うべき取り組み ・ 川西市における自然環境や生物多様性に関するご意見、ご要望、ご自身のお考えなど
集計・分析	①単純集計	回答者の属性、設問ごとの回答を集計
集計・分析	②クロス集計	回答者の属性と設問内容間、または設問間の関連の深いものや特徴が見られるものについて、分析し、その傾向を把握する。
集計・分析	③自由回答	記述内容を整理・分類・類似する件数を把握し、その傾向をまとめる

生物多様性に関する市民アンケート（案）

お答えいただく方に関する設問

設問の意図：年齢層やお住まいの場所ごとにアンケート結果を分析するために利用します。

Q1. あなたの年齢について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. ~19歳 | 2. 20歳~29歳 | 3. 30歳~39歳 |
| 4. 40歳~49歳 | 5. 50歳~59歳 | 6. 60歳以上 |

Q2. あなたのお住まいについて、町丁名を記入し、川西市内での居住年数をご記入ください。

お住まい： 川西市 _____ 居住： 約 _____ 年

生物多様性に関する設問

設問の意図：「生物多様性」という言葉や考え方の浸透度合いを把握します。「生物多様性かわにし戦略」をまとめるにあたり、説明内容の工夫や、説明ポイントの絞り込みに活用します。

Q3. あなたは「生物多様性」という言葉をご存じでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 言葉も意味も知っていた
2. 意味は知らないが聞いたことはあった
3. 知らなかった・聞いたこともなかった

Q4. あなたは「生物多様性ふるさと川西戦略」をご存じでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っていた
2. 内容は知らないが聞いたことはあった
3. 知らなかった・聞いたこともなかった

川西市の自然に関する設問

設問の意図：川西市には、他の自治体にはないすばらしい自然や文化があります。これらは川西市の生物多様性を守る重要な場所にもなっています。こうした自然や文化を川西市民みなさんがどれだけご存じか、また、今後も守っていききたい、または残していききたいと感じておられるのかを把握します。

「生物多様性かわにし戦略」で目標とすべき自然や将来像を検討する際の参考とします。

Q5. 次のページより「川西市の生態系を育むすばらしい自然」を示しています。1～16の自然について、知っている、聞いたことがあるものにチェックを入れてください。

紹介している自然の番号の横にチェック欄があります。それぞれの自然について、知っている、または、聞いたことがある自然であれば、チェックしてください。

赤丸で示した四角の中にチェックを入れてください。

◆記入方法→☑

用紙は全部で16の自然を紹介しています。

☐ご存じの方はチェックを入れてください。

川西市の生物多様性を育むすばらしい自然

1 日本一の里山
黒川には、一帯炭を生産するクヌギからなる里山林が今なお残り、伐採年度の異なる林をパッチワーク状に見ることができます。これが里山本来の景観であり、私たち日本人の親しみでもあります。黒川の里山は、「日本一の里山」と言われています。

2 妙見山のブナ
水ノ山や六甲山の山頂などの冷涼な地域に生えるブナが、妙見山にも分布しています。黒南部ではブナは限られた地域でしか見ることができません。

3 棚田（赤松・笹部）
赤松や笹部には、美しい棚田の景観を見ることができます。軒にはチガヤやスキの草蓐が見られ、山林では出会うことのない植物や昆虫が生えています。

4 エノキ林
南部市街地には河岸段丘があり、エノキの林を見ることができます。洪水などのかく乱を受ける場所に生える林ですが、猪名川の近くは市街化が進んでいるためほとんど見ることができません。この河岸段丘には緑生のホテルであるヒメポタルもすんでいます。

5 神社林
神社には神の宿る森として大事に守られてきた自然性の高い林を見ることができます。多太神社や高瀬寺には、シイなどの里山にはあまりない照葉樹からなる林が生えています。市街地にある神社の林は、小曲嶺でも限られた緑地として非常に大切です。

6 初谷川
初谷川は、猪名川の支流のひとつです。流れが激で、激水すると水につかる岩礫には、鮭木としてよく植えられるサツキの野生種を見ることができます。猪名川水系でサツキが生える場所はここしかありません。

7 猪名川渓谷
ニュータウンの一角にある猪名川渓谷では、河川の侵食によりできた美しい自然景観を見ることができます。エドヒガンというめずらしい桜の野生種もあり、春には渓谷がピンク色に染まります。

8 鼓が滝
鼓が滝は、西行法師が見事な滝をながめて歌を詠んだと言い伝えられる場所です。激水すると水につかる岩礫には、サツキと同じく鮭木として馴染みのあるユキヤナギが野生で生えており、大群落をつくっています。

9 川西北小前の水路
川西北小学校近くの水路では、二枚貝やそれに産卵して繁殖する風変わりな魚のタナゴ類が生息しています。猪名川水系でこのような場所は、ほとんどなく、市街地における貴重な自然となっています。

□ご存じの方はチェックを入れてください。

川西市の生物多様性を育むすばらしい自然

里地・里山

1 日本一の里山

黒川には、一庫炭を生産するクヌギからなる里山林が今なお残り、伐採年度の異なる林をパッチワーク状に見ることができます。これが里山本来の景観であり、私たち日本人の原風景でもあります。黒川の里山は、「日本一の里山」と言われています。



2 妙見山のブナ

氷ノ山や六甲山の山頂などの冷涼な地域に生えるブナが、妙見山にも分布しています。県南部ではブナは限られた地域でしか見ることができません。



3 棚田(赤松・笹部)

赤松や笹部には、美しい棚田の景観を見ることができます。畦にはチガヤやススキの草原が見られ、山林では出会うことのない植物や昆虫が生活しています。



自然の森林

4 エノキ林

南部市街地には河岸段丘がありエノキの林を見ることができます。洪水などのかく乱を受ける場所に生える林ですが、猪名川の近くは市街地化が進んでいるためほとんど見ることができません。この河岸段丘には陸生のホタルであるヒメボタルもすんでいます。



5 神社林

神社には神の宿る森として大事に守られてきた自然性の高い林を見ることができます。多太神社や万願寺には、シイなどの里山にはあまりない照葉樹からなる林が生えています。市街地にある神社の林は、小面積でも限られた緑地として非常に大切です。



河川・水辺

6 初谷川

初谷川は、猪名川の源流部のひとつです。流れが急で、増水すると水に浸かる岩場には、庭木としてよく植えられるサツキの野生種を見ることができます。猪名川水系でサツキが生える場所はここしかありません。



7 猪名川溪谷

ニュータウンの一角にある稲名川溪谷では、河川の浸食によりできた美しい自然景観を見ることができます。エドヒガンというめずらしい桜の群生地もあり、春には溪谷がピンク色に染まります。



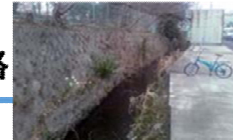
8 鼓が滝

鼓が滝は、西行法師が見事な滝をながめて歌を詠んだと言い伝えられる場所です。増水すると水に浸かる岩場には、サツキと同じく庭木として馴染みのあるユキヤナギが野生で生えており、大群落をつくっています。



9 川西北小前の水路

川西北小学校近くの水路では二枚貝やそれに産卵して繁殖する風変わりな魚のタナゴ類が生息しています猪名川水系でこのような場所は、ほとんどなく、市街地における貴重な自然となっています。



シンボル(自然)

10 エドヒガン

猪名川上流域、特に市域の北部の山林にはエドヒガンが数多く生えています。日本に自生する桜の中では最も長寿で木の高さは20m以上になります。猪名川上流域のほか、県下では但馬、西播でしか見ることのできないめずらしい桜です。また、桜の代表品種であるソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラの雑種です。



11 台場クヌギ

猪名川上流域の里山では、クヌギを地上1~2mの高さで繰り返し伐採する方法が一般的でした。このため、土台となるクヌギの主幹はだんだん太くなり、台場状(台場クヌギ)となりました。この台場クヌギは、日本一の里山の象徴的な存在といえます。



12 ヒメボタル

市域には、陸生のホタルであるヒメボタルがすむ林を見ることができます。よく知られた水生のゲンジボタルやヘイケボタルと同じように光りますが、光り方が少し異なります。金色に短く光る様子はまるでフラッシュライト、夜の林をにぎやかに照らします。



シンボル(農産業)

13 イチジク

イチジクの栽培は、明治時代から始まりました。稲名川の地下伏流水が豊富で、しかも水はけがよい砂地であることがイチジクの生産に適しています。



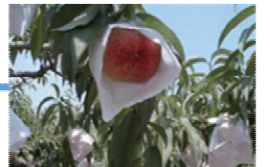
14 クリ(銀寄)

市域のクリは、多くの銀札を寄せたので「銀寄(ぎんよせ)」と呼ばれました。よく管理されたクリ林は明るく、時にめずらしい生き物を見ることができます。



15 モモ

市域で生産されるモモは、通常よりも一月早く収穫できる早生(わせ)桃で、兵庫県下でもこれを作っているのは川西市だけです。



16 一庫炭

北部の山林は、千利休や豊臣秀吉が愛用した一庫炭(池田炭・菊炭)を産することで全国的にも有名でした。黒川では、今もなお一庫炭を生産し続けています。



Q6. あなたが今後、川西市で残したいと思う自然はどのようなものですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)。

1. 昆虫採集やハイキングが楽しめる里山 (雑木林)
2. 草花遊びができる畦や草原
3. イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園
4. 地元産の野菜や米が採れる農地
5. カエルやメダカのすむ田んぼや池
6. 水がきれい生きもの豊かな水辺 (猪名川 ・ 溪流 ・ 水路)
7. 緑が多く、生きものがたくさんすむ公園
8. 落ち着きのある神社の森
9. 特にない
10. その他 ()

Q7. 逆に過去よりも悪くなり、元に戻すべき自然や場所があればお書きください。

悪くなってしまった場所、どのように悪くなったのかなどを書いてください。

生物多様性に関わる行動に関する設問

設問の意図：今後、皆さんが生物多様性を守っていくため『できる』ことを把握します。川西市の生物多様性を保全するための施策や行動計画を決めていくために活用します。

Q8. 日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけていますか。右端の欄のあてはまる欄にQをつけてください。

取り組み・活動内容	常に意識して行動している	時々行動している	行動していない
1. ネコやカラスの餌にならないよう、ごみ出しのルールを守っている			
2. 地域の公園などの青帯種に参加している			
3. 飼っていた生きものを野外に逃がしたり、捨てたりしない			
4. ベランタや庭こ鳥やチョウが好む植物を植える			
5. 学校や職場などの*ビオトープづくりに関わる			
6. ハイキングや自然観察会などに出かける			
7. 里山や水辺で生きものや自然環境を保全する活動に参加する			
8. 地域の特産品（クリ、イチジク、地場の野菜等）を積極的に消費する			
9. 環境に配慮した商品を購入する			
10. 公共交通機関（鉄道、バス）を利用する			
11. 節電やエコドライブなどの省エネルギーや再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる			

*ビオトープ (Biotope) : 「生きもの (Bio)」が生息する「環境・空間 (Tope)」という意味です。具体的には、ため池、湿地、草原、里山などの場所であり、生きものを呼び込むために人工的に作り出したものをいいます。

Q11. 川西市における自然環境や生物多様性に関するご意見、ご要望、ご自身のお考えなどがありましたら
ご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

生物多様性に関する小学生アンケート（案）

お答えいただく方に関する設問

設問の意図：

生物多様性に関する設問

設問の意図：「生物多様性」という言葉や考え方の浸透度合いを把握します。「生物多様性かわにし戦略」をまとめるにあたり、説明内容の工夫や、説明ポイントの絞り込みに活用します。

Q1 あなたは「生物多様性」という言葉を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 言葉も意味も知っていた
2. 意味は知らないが聞いたことはあった
3. 知らなかった・聞いたこともなかった

Q2 あなたは「生物多様性ふるさと川西戦略」を知っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っていた
2. 内容は知らないが聞いたことはあった
3. 知らなかった・聞いたこともなかった

生物多様性に関わる行動に関する設問

設問の意図：今後、皆さんが生物多様性を守っていくため『できる』ことを把握します。川西市の生物多様性を保全するための施策や行動計画を決めていくために活用します。

Q4. 日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけていますか。右端の欄のあてはまる欄にQをつけてください。

取り組み・活動内容	常に意識して行動している	時々行動している	行動していない
1. ネコやカラスの餌にならないよう、ごみ出しのルールを守っている			
2. 地域の公園などの青鳥種に参加している			
3. 飼っていた生きものを野洲に逃がしたり、捨てたりしない			
4. ベランダや庭に鳥やチョウが好む植物を植える			
5. 学校の*ピオトープづくりに関わる			
6. ハイキングや自然観察会などに出かける			
7. 里山や水辺で生きものや自然環境を保全する活動に参加する			
8. 地域の特産品（クリ、イチジク、野菜など）を積極的に食べる			
9. 環境に配慮した商品を購入する			
10. 鉄道やバスを利用する			
11. 電気をつければなしにしないなど省エネルギーに取り組んでいる			

*ピオトープ (Biotope) : 「生きもの (Bio)」が生息する「環境・空間 (Tope)」という意味です。具体的には、ため池、湿地、草原、里山などの場所であり、生きものを呼び込むために人工的に作り出したものをいいます。

生物多様性に関する設問

設問の意図:「生物多様性」という言葉や考え方の浸透度合いを把握します。「生物多様性かわにし戦略」をまとめるにあたり、説明内容の工夫や、説明ポイントの絞り込みに活用します。

Q3. 貴社は「生物多様性」という言葉をご存じでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 言葉も意味も知っていた
2. 意味は知らないが聞いたことはあった
3. 知らなかった・聞いたこともなかった

Q4. 貴社は「生物多様性ふるさと川西戦略」をご存じでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っていた
2. 内容は知らないが聞いたことはあった
3. 知らなかった・聞いたこともなかった

Q5. 貴社が今後、川西市で残したいと思う自然はどのようなものですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)。

1. 昆虫採集やハイキングが楽しめる里山（雑木林）
2. 草花遊びができる畦や草原
3. イチジク、クリ、モモなど特産品がつくられている果樹園
4. 地元産の野菜や米が採れる農地
5. カエルやメダカのすむ田んぼや池
6. 水がきれい生きもの豊かな水辺（猪名川 ・ 溪流 ・ 水路）
7. 緑が多く、生きものがたくさんすむ公園
8. 落ち着きのある神社の森
9. 特にない
10. その他（ ）

生物多様性に関わる行動に関する設問

設問の意図： 今後、皆さんが生物多様性を守っていくため『できる』ことを把握します。川西市の生物多様性を保全するための施策や行動計画を決めていくために活用します。

Q6. 日常生活の中で生きものや自然環境に配慮した行動を心がけていますか。右端の欄のあてはまる欄にQをつけてください。

取り組み・活動内容	常に意識して行動している	時々行動している	行動していない
1. 節電やエコドライブなどの省エネルギー再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる			
2. 環境に配慮した商品を製造する			
3. 従業員への自然環境に関する研修を実施する			
4. 職場の※ビオトープづくりに関わる			
5. 地域の公園などの清掃種に参加している			
6. 里山や水辺で生きものや自然環境を保全する種に参加する			

※ビオトープ (Biotope) : 「生きもの (Bio)」が生息する「環境・空間 (Tope)」という意味です。具体的には、ため池、湿地、草原、里山などの場所であり、生きものを呼び込むために人工的に作り出したものをいいます。

Q7 「生物多様性」の保全にあたり、川西市はどのような取組を行うとよいと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

1. 希少な動植物の保護
2. 里山など身近な自然の保護
3. 害獣や外来生物による生態系への被害の防止
4. 生態系の調査やデータの集積
5. 生物多様性保全に取り組む企業や団体への支援
6. 生物多様性の保全に関する情報の普及啓発
7. 学校や地域のイベントによる環境教育の推進
8. その他 ()

Q8. 川西市における自然環境や生物多様性に関するご意見、ご要望、お考えなどがありましたらご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。